

ときめき

Beating Kashima

# 鹿島

2013.10  
秋号  
45号

ポラリス

★ポラリス(本欄)を自薦するには本欄を見分けること。自薦すところ(方向)は一様でもやり方はそれぞれ多種多様。一人一人の思いをエッセイの形で伝えたい。

## 三登看護部長のポラリス「笑るほど頭を垂れる稲穂かな」

看護部長 三登 早苗

酷暑と称された夏も過ぎ、今は鹿島病院のあたり一面の田んぼが黄金色の稲穂に覆われて、風も空も秋色に澄んでいます。みっしりと実がついた穂が重そうに垂れるようすを、昔の人は本当に的確に表現していることですね。

米を育てる皆様の1年にわたる毎日の積み重ねが、今まさに実を結ぼうとしています。

その一方で、この実りを収穫することもできなかった豪雨被災地の皆様の辛いお気持ちがおもわれ、心からお見舞いを申し上げます。

過去からの積み重ねと言えば「歴史」があります。中学生だった頃、教室の黒板の上には歴史年表が貼ってありました。年表を見ながら育った私は、よくあるタイムマシンやタイムスリップのドラマのように、歴史の事象が今も存在しているかのような錯覚を持っていました。

しかし、(当たり前のことではあります)過去の事象は今現在探してもどこにもありません。在るのは今のこの瞬間瞬間だけです。「過去〇〇だった」という記述があっても今は伝承か記憶でしか残っていません。

歴史が大切であるのは、それが未来を選択するときの判断の基準ともなるからでしょう。

日々変わりゆく日常の中で、過去〇〇だったという記憶は手探りで進む道を選ぶときの灯りとなります。

記憶と知識を駆使して上手く事が成し遂げられたとき、記憶は知恵となります。

あのときああいうふうにした事は良かった、あれはとても良い事だった、こんなときはこうすると良かったように憶えている、など。記憶は百人百通り。知恵も百人百通り。

おりしも今は激動のとき。過ぎ去った愛しい日々の記憶を知恵にかえ、百人百通りの知恵を積み重ね、皆で鹿島病院の今日と明日とを創っていきましょう。



鹿島病院の理念  
基本理念

私たちは、仁愛の心をもって「医療と介護サービス」を提供し、地域に貢献します。

鹿島病院の理念  
基本方針

1. 鹿島病院を中心に地域と連携して、良質な慢性期医療を確立します。
2. 患者様・利用者様の人権を尊重し、思いやりとつくしみの心で接します。
3. 技術や知識向上のため、たゆまぬ努力を行ないます。

鹿島病院の理念  
行動指針

1. Safety …安全を最優先します。
2. Speedy …変化に能動的に挑戦します。
3. Service …おもてなしの精神で接します。

## 医療法人財団公仁会中期ビジョン2013

### 中期ビジョン2013

#### 慢性期医療の確立

##### 1. 病院機能

- (1)慢性期医療の推進
- (2)回復期リハビリテーションの推進と積極的拡充
- (3)特殊疾患、回復期、療養病棟の再編成の検討
- (4)医療療養病床平均在院日数135日を目指す
- (5)後発医薬品の使用促進

##### 2. 在宅サービス機能

- (1)在宅サービスの質の向上
- (2)医療、介護関係機関との連携強化
- (3)在宅サービスの評価・検討・相乗力強化

##### 3. 医療安全対策の推進

- (1)感染防止対策の活性化  
・専門的知識のレベルアップ
- (2)医療安全対策の活性化(医療安全、医薬品、医療機器)  
・専門的知識のレベルアップ

##### 4. 地域連携 及び 地域貢献

- (1)急性期及び介護保険施設の支援病院としての機能強化
- (2)地域の診療所との連携
- (3)患者退院後の地域連携の確立
- (4)予防医療や介護技術を地域へ普及

##### 5. 高齢者や障害者を意識した施設・設備・環境の整備

##### 6. 継続的な医療サービスの質の改善への取組み

- (1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動
- (2)臨床指標(Clinical Indicator)の検討・活用
- (3)患者満足度向上の組織的取組み
- (4)診療録・看護記録等の質の向上

##### 7. エコロジーへの取組み

##### 8. 人材の育成

- (1)職員教育体系の構築
- (2)専門的知識を有するスタッフの育成
- (3)人事評価体系の構築

##### 9. 電子カルテシステムの評価、改善

##### 10. リスクの軽減とリスクへの備え

- (1)組織的にリスクの再評価、再検討
- (2)新型インフルエンザ対策
- (3)原子力災害への対応

## 患者様・利用者様の権利宣言

平成21年10月1日改正

#### 1. 個人の尊厳

患者様・利用者様は、ひとりの人間として、その人格・価値観などを尊重されます。患者様・利用者様ご自身が意思表示や意思決定できない場合は、ご本人の尊厳を最優先にご家族と当財団のスタッフでよく話し合い決定していきます。

#### 2. 平等で最善の医療と介護サービスを受ける権利

患者様・利用者様は、平等で安全に配慮された最善の医療・介護サービスを受ける権利があります。

#### 3. インフォームド・コンセントと自己決定権

患者様・利用者様は、医療と介護サービスに関することについて、わかりやすい言葉や方法で説明を受け、その内容を十分に理解した上で選択・同意し、適切な医療・介護サービスを受ける権利があります。

また医師から提案された医療・介護サービスに同意できない場合は、拒否することもできます。拒否することで不利益をこうむることはありません。

その選択にあたっては、他の医療・介護サービス機関の意見を聞く(セカンドオピニオン)ことができます。

#### 4. 情報に関する権利

患者様・利用者様は、当財団で行われたご自身の医療・介護サービスに関する情報の提供を受ける権利があります。

#### 5. プライバシー及び個人情報の保護

患者様・利用者様は、私的な生活を可能な限り他人に侵されない権利があります。医療・介護サービスの過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者様・利用者様の承諾なしには開示されません。

## 鹿島病院臨床倫理の方針

平成22年1月1日制定  
(平成22年1月6日: 部会承認)

1. 患者様の人権を尊重するとともに、患者様と医療従事者が協力して公正かつ公平な医療を提供します。
2. 患者様ご自身が意思決定できない場合は、ご家族と十分に話し合い治療方針等を決定します。

3. 終末期治療方針は、医学的に安当で適切な医療を患者様・ご家族の同意の上、多数優先となるケアチームで決定します。
4. 患者様の信条や価値観を尊重した医療を提供します。
5. 臨床研究は、倫理的審査を行った上で患者様・ご家族の同意に基づき実施します。

# 鹿島伝

## リハビリテーション伝説 vol.9

リハビリテーション部 部長  
**田野 俊平**



リハビリテーション部  
**松浦 祐治**



回復期病棟27床が開設されて5年が経過した節目に10月から33床へと増床となりました。リハ部としてもセラピスト増員により現在37名。今後も増えていく予定であり、リハ部の権力拡大へ一歩前進(?)です。また人数を増やしても役立たずの集まりにならないように日々努力をし、清水院長の叱咤・叱咤・叱咤の嵐を受けて糧にしている毎日です。

25年度上期の回復期リハ病棟の治療成績(下図)を分析してみると24年度と比較して重症者患者割合が7.8%増加していました。そのための退院時FIMの増加(2.38点)のみで在宅復帰率や在棟日数、FIM改善度は増加には至りませんでした。今後も増床によりさらなる重症者の受け入れが予測されます。きちんと体制を整え、さらなる機能改善や在宅復帰を目指していきます。

平均年齢	発症から入院までの期間(平均)	入院判定会議から入院までの期間(平均)	在棟日数(平均)
79.87歳	34.36日	8.49日	86.49日
入院時FIM(平均)	退院時FIM(平均)	FIM改善度	FIM効率
67.20点	85.91点	18.71点	0.24
入院時日常生活機能評価(平均)	退院時日常生活機能評価(平均)		
7.07点	3.25点		
新規入院患者重症患者割合	重症患者の日常生活機能評価3点以上改善割合	在宅復帰率	
45.3%	71.4%	78.2%	

### 9月8日第3回リハビリ教室を行いました



作業療法士  
**可知 秀樹**

今回、初めてリハビリ教室に参加させていただきました。リハビリ教室では33名の方が参加され、女性の方だけでなく男性の方も多く参加されていました。皆さんの健康に対する意識の高さが見えました。午前中という短い時間ではありましたが、健康についての講演や体力測定、健康体操の実演など内容も充実しており、進行もスムーズにできていたと感じました。近隣の方たちと顔を合わせて、皆さんと一緒に健康について考えていくことは素晴らしいことだと改めて感じました。今後もこのような活動をを通して皆さんと一緒に健康について考えていくことができたいと思います。

私はバランス能力の測定と、タオルを使ったリハビリ体操のインストラクターを務めさせて頂きました。参加されたのは33名で、過半数が女性でした。私は今回初めての参加でしたが、参加された皆様はご年齢に関わらずお元気な方ばかりで、逆にこちらが元気を頂きました。用意していたプログラムの内容以外にも、皆様から「膝が痛いんだけど何がいい運動はない?」「家でも簡単に出来る運動を教えてください」と様々な相談を持ち掛けて下さり、とても有意義な交流の場となりました。半日のイベントでしたが、終始大変盛り上がり、あっという間に終了していました。帰り際皆様から「また参加するね」「教えてもらった運動頑張るね」と声を掛けて下さいました。今後もこのような地域の方々との交流の場があれば、是非参加させて頂きたいと思っております。ありがとうございました。



理学療法士  
**堀江 貴文**



### 日本歯科衛生学会 第8回学術大会にて発表しました

口腔ケア科  
**中村 みどり**

平成25年9月14日～16日、神戸国際会議場にて「歯と口腔保健の新たな展開―歯と口の健康を守り、生きる力を支えよう―」をテーマに学術大会が開催され、過去最大の2,100名あまりの参加者189演説がありました。

今回、「食べられるロフくり」のための栄養管理と口腔管理の重要性について題目し、回復期リハビリテーション病棟における大脳脊髄損傷新患者の栄養状態および口腔内状態という演題で発表を行いました。

シンポジウム「歯科医療連携によるチーム医療の推進をめざして」ではこれからの歯科衛生士は他職種に向けて歯科の専門性を発信し、実績を積み重ねていくこと、全身疾患についても幅広い知識を身につけ、協働の基礎をつくることなどが求められていると語っていました。

会期中は台湾18号の影響で交通機関の乱れもあり移動など大変な思いもりましたが、夜は怡泉(6F)の歯科衛生士とお酒や美味しい料理、そして情報交換(?)と有意義な時を過ごしました。

今後も学びの場へ積極的に参加し、日々研鑽し歯科ニーズの変化に対応した歯科衛生士になれるよう努力したいと思います。



### 第25回島嶼リハビリテーション研究会

理学療法士  
**村上 直美**

10月5日に出雲で開催された、第25回島嶼リハビリテーション研究会にて「当院での長期療養患者に対する外出への取り組み」という内容で発表させていただきました。

今日発表するにあたり、今までの取り組みを振り返り、リハの役割などについて考える機会となりました。最期の時を迎えるまでの過ごし方は人それぞれとは思いますが、その選択を少しでも広げていくことができるように手助けしていきたいと思いました。

また、他の方の発表も興味深い内容が多く、考え方やアプローチ方法に刺激を受けました。今後もこのような会に参加することで、視野を広げていきよりリハビリが提供できればと思います。



## 回復期リハビリテーション病棟増床

10月1日より回復期病棟は増床しました。そのために患者様に病室を移動していただくことになりました。おかげさまで事故もなく無事に移動することができました。事前に綿密に準備を重ねてくれたスタッフに感謝します。

回復期病棟増床により、一人でも多くの方に集中的なリハビリを受けていただき、再び住み慣れた自宅で生活ができるお手伝いができたらと思います。そのために、多職種によるよりよいチームワークが発揮できるように働きやすい環境を整えたいと思います。

看護部  
曾田 淳子



平成20年に当院に回復期リハビリ病棟(以下回り八病棟)が開設してから5年の歳月を経て、今年の10月ようやく33床の増床に至りました。わたしは平成20年の立ち上げから回り八病棟に関わらせていただいています。5年の間で悪戦苦闘することも多かったですが、最近是他病院や地域の方からも鹿島病院=リハビリという印象を持って頂けるようになり、少し誇らしく感じています。引き続きより多くの方が自宅で生活できるようになること、鹿島病院の中核になれるようにさらに精進したいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

医療相談部  
金田 直樹



鹿島病院2013の目玉とも言える回復期病棟の拡充が行われた。ここに至るまでに臨時委員会を立ち上げ拡充に際し予想される様々な問題を挙げ、拡充が円滑に行われるように議論してきた。そして幕は開いた。病棟職員として率直な感想は「とても忙しくなった」である。では、何がそんなに忙しくなったのか?まず動線が長くなった。なぜかNsコールが増えた。入浴者が増えた。Etc...

とはいえこれは想定内とも言える問題だ。私達が改善していける事もある。33床はゴールではなく始まりである。3階病棟が1つの病棟として機能する、すなわち、3階が回復期病棟オンリーとして機能できる日が来るまでの1つの山を越える時期ではないかと私は考えている。冒頭に述べたが、拡充は鹿島病院の大きな目玉のイベントである。全職員が協力し力を合わせなければこの山は越えられない。大きな、大きな「元氣玉」を打ち上げたいと思っている(ドラゴンボール参照)。

看護部  
景山 真希



鹿島病院に入職して14年経ちましたが、10月からは回復期病棟が27床から拡充されることになりました。『姥捨山』、『あそこに入ったら出られない』と言われてきた時代には終止符を打ち、在宅復帰のスペシャリスト集団といわれるようスタッフが一丸となって頑張っております。しかし、リハビリテーション科はまだまだ若い集団です。「これはどういうことだ」「納得できない」などの感想を持たれた方は、どんどん意見をお寄せください。より良いリハビリテーションの提供、納得のいく説明ができるよう私たちも成長していかなければならない時だと思っております。回復期病棟では365日、1日最大3時間のリハビリテーションを提供しており、退院後の生活が充実したものとなるよう願っております。「ここに来てよかった」と一人でも多くの患者様から言っていただけるよう精進していきます。

リハビリテーション部  
辰巳 裕美



## 1日看護体験に参加して

●初めての1日看護体験をして、地元でありながらあまり鹿島病院の事を知らなかったのですが、今日の体験を通していろいろな事が分かりました。いろいろな病気を患っている方にそれぞれの対応をとっているのにとっても感じました。また患者さん1人1人のお名前も分かっておられ、とてもいいに接しておられたのを見て、実際に病院で見られないのでとてもよかったです。今日の1日看護体験を通して病院全体で動いているのがとても分かりました。

自分も3年後には、看護師になれるように勉強をがんばっていきたく思います。

●今日はおもに回復期を見学させていただきました。普通の病院とちがいで、患者さんは私服を着ていたのが、少し驚きました。シーツ交換を体験させてもらった時、患者さんの私物がベッドのどこにあったか、どこに枕があると生活しやすいかなど、1人ひとりに対して詳しく把握していたので大変だと感じました。

ALSという病名を初めて聞きました。頭では理解して、体が動かなくなるのはとてもつらいと思うし、人になるべくめいわくをかけたくないと思うからです。2階にそういう患者さん方がいて、ケアする方も、患者さん自身もつらく大変だと思いました。1階のリハビリのところでお年寄りの方と体操やレクをして思ったのは、生きる中ではやっぱり楽しみなことが必要なんだと思いました。

今日は一日いろいろな事を学ばさせていただきました。ありがとうございました。

●今日の体験を通して、私はたくさんのお話を聞くことができました。この鹿島病院にはおじいちゃんが入院しているので、来たことはあったのですが、こんなに丁寧に細かくかなり深いところまでお話をきけたのは初めてでした。特に印象に残ったのは、理事長先生のお話でした。この鹿島病院は、患者さんを無理に退院させるのではなく「帰りたい」という意志によるリハビリをサポートすることでした。



Toshio Terrace

# つうしょテラス

## デイサービス利用者様による季節の作品作り (おてかけ気分、わくわく気分で!!)

鹿島病院デイサービスは様々な病気や、心身の状態(介護度)の方がご利用されています。当デイサービスは2~3か月に1回ずつ協同作品作りを利用者様と一緒にしています。本年は干支作りから始まり、ひな祭りのコスチューム作り、こいのぼり、七夕と、様々な作品作りに挑戦し、作品作りはすっかり定着してきました。それぞれの作品に使用する材料はストローであったり、お花紙であったり、身近にあるものを使いますが、作り方や材料の使い方、色彩などいろいろ工夫もしています。

今回はネットを使用した本格的な(?)ぶどう棚作りにも挑戦してみました。新しいものに挑戦するたびに利用者様より、「今度は何ができかね。」「私は何をすかね。」「えしこにできかね。」と、少しだけ不安を持たれながらも、わくわくしながら作業に取り組みれます。毎日毎日、お花紙に色を塗っていただき乾かして丸めてペットボトルに貼り付ける(ぶどうの房になる)作業の繰り返しでした。紙が薄いので時々破れたり丸めても上手にふくらと出来なかつたりと、失敗作をみては、それはそれで大笑いでした。

初めはペットボトルの口を上にしたのですが、利用者様よりぶどうの感じが違うとの事で、口を下にして正解!!でした。このように作っている段階でも次から次へと新しいアイデアがわき、和気あいあいと楽しく作品作りを行うことができました。こうしてぶどうの房はできたのですが、作品をセットするのに枝がいる、つるが必要でとの利用者様の声に、職員は大慌てでした。どうにかぶどう狩りの時期に間に合いました。利用者様との記念撮影も無事終了、皆さん苦心の作品と共にいい顔で写真に納まりました。

デイサービスのぶどう棚にはおいしいそうなぶどうが、たわわに実っています。見学や記念撮影をご希望の方がいらっしゃいましたら、どうか遠慮なく、お話し合わせの上デイサービスに足を運んでみてください。

最後にクイズです。今回作成したぶどうの1房あたり(ペットボトルで作成)には何個のお花紙が丸めてあるでしょうか?(答えは病院ロビーで探してみてください。)

今後もデイサービスでは、利用者様とともに季節や年中行事ごとの作品作りを通して、季節を感じ、利用者様や職員とのふれあいをはかっていきたくと思います。次の作品にもどうかご期待をお願いします。



## 看護体験生の感想

●私は今回初めて、看護体験に参加しました。そして、看護服を着てドキドキしながら始まりました。

正しい消毒の仕方や、血圧の計り

方などを教えてもらってから、病棟に見学に行きました。部長の方と一緒に一人の女性の方に付き添わせてもらいました。

その女性はとても明るく楽しい方でした。緊張したけど、手を握ったら「あたたかいね」と言ってくださりずっと手を握っていました。その手は冷たかったので、私はあたたかくしてあげたいと思いました。

病院へ通所されている方達のところにも行きました。みなさんあたたかく迎えて下さり、私がはげましてもらいました。

鹿島病院では通り過ぎる職員の方々が「おつかれさま」と言って下さり、あいさつがとびかかっていました。学校でも、あいさつを指摘されるけど、お手本のようでした。私も将来医学系の仕事にたずさわりたいです。



## デイサービス家族会を開きました

10月2日(日)に鹿島病院デイサービスの家族会を開きました。家族会は久しぶりでしたが10名の方が参加してくださり、少人数でしたがなごやかな時間を過ごすことができました。

当日は、利用者様がいつもされている体操と一緒にしてもらい日頃の疲れを少しとっていただきました。

その後の話し合いでは、介護をしていて不安なことやデイサービスへの要望など色々な意見を聞くことができとても参考になりました。

またやまゆり居宅のケアマネも参加していましたので短時間でしたが有意義だったと思います。

参加して下さった家族様、本当にありがとうございました。

今後も家族会は開催していく予定です。

みなさんへ出席していただけるように内容も充実させていこうと思っていますのでよろしくをお願いします。



## 健康コーナー 豆知識

# ロコモティブシンドローム

理学療法士 板垣 陽介



みなさんは「ロコモティブシンドローム」という言葉を聞いたことがありますか？日本整形外科学会が、2007年（平成19年）に、新たに提唱しましたもので、最近ではテレビなどでも取り上げられて周知されてきているものです。

和訳すると「運動器症候群」といい、主に加齢による骨・関節・筋肉といった運動器の機能が衰えることにより、日常生活での自立度が低下し介護が必要になったり、寝たきりになったりする可能性が高い状態のことをいいます。例えば、足腰が弱くなり立ったり歩いたりする移動が大変になってきた状態などがあげられます。まさにリハビリが必要な状態で、われわれの出番といえます。

自己診断方法として、以下の7項目があげられます。

- ・片脚立ちで靴下が履けない
- ・家のなかでつまずいたり滑ったりする
- ・階段を上るのに手すりが必要である
- ・横断歩道を青信号で渡りきれない
- ・15分くらい続けて歩けない
- ・2kg程度（1リットルの牛乳パック2個程度）の買い物で持ち帰りが困難
- ・家のやや重い仕事（掃除機の使用や布団の上げ下ろしなど）が困難

このチェックでは、バランス感覚、身体全体の筋力、筋持久力、歩行の速さ（体重移動の速さ）、心肺機能や脊柱管狭窄症の有無、というように筋力的な問題はないが、運動器の影響からでている神経障害がないか、バランス感覚は鈍っていないかなどの測定をしています。

この中の一つでも当てはまる場合はロコモの可能性があるとされています。

また、40代から運動器に症状が出始めるといわれており、20代・30代の生活が後々に影響することも考えられているので、決して若者も他人事ではありません。

ロコモティブシンドロームで重要なのは身体の衰えを予防することです。なるべく早期から運動習慣を身につけ、運動器の機能低下を防ぐことが大切です。みなさんも無理なく続けられる運動を始めて、「健康寿命」を延ばしていきましょう。



## 見えない星

金子みすゞ

空のおくには何がある。  
空のおくには星がある。

星のおくには何がある。

星のおくにも星がある。  
眼には見えない星がある。

みえない星はなんの星。

お供の多い王様の、  
ひとりの好きなたましいと、  
みんなに見られた踊り子の、  
かくれていたいたましいと。

## 慢性呼吸器疾患看護認定看護師の資格を取得しました。

看護部

井上 明子



今回、7月に慢性呼吸器疾患看護認定看護師の資格を取得しました。慢性呼吸器疾患と言われても、どんな疾患があるのかわかりにくいと思います。主にCOPD、間質性肺炎、気管支喘息、肺結核後遺症、肺炎などの患者さんの安定期、増悪期、終末期におけるQOLの向上に向けての看護を実践して行きます。また、神経筋疾患(ALSなど)の患者さんもこの分野に含まれているため、認定看護師としての活動が幅広くなっています。

当院には、人工呼吸器の患者さんがNPPVを含めて常時25名前後、その他に酸素療法が必要な患者さんや吸引が頻繁に必要な患者さんなども多く入院されています。また、誤嚥性肺炎を繰り返し起こす患者さんなどもおられます。そのため認定看護師として、各種機能が連携して患者さんの入院生活や退院支援、在宅などでの生活について相談・支援して行けたらと思っています。

まだまだ勉強不足ですが、相談にのるので気軽に声を掛けてください。よろしくお願いします。

## 2F病棟にて家族会を行いました

回数を重ねているせいか、家族様同士で会話される場面もあり、小経理事長のお話のテーマが「愛」。「まずは職員を大切に考えている、そこから患者様を大切にすることへつながる」というお話に耳を傾ける家族様方の眼差しは真剣そのものであった。

職員の自己紹介時や、家族様のお話の時も笑顔や笑い声が聞こえたりしていた。会終了後、早速家族様との会話の幅が広がった。本会も職員と家族様、家族様同士が気軽に声を掛け合える環境作りにつながったと考える。

### アンケートより

- スタッフの皆様方には私たち家族のために心のこもったおもてなしをいただき、大変感謝しています。隣の方たちともお話ができて大変有意義でした。
- 大正琴の演奏に合わせて皆で歌って心が和み楽しかったです。先生の詳しい話を聞いて、いつも不安に思っていたことが少し解り精神的にちょっと落ち着いたように感じました。
- 何よりも隣の方と色々な話ができて良かったです。
- 私も前向きに考えていきます。早速中止していた機械編みの仕事もポチポチはじめようと、やる気を出そうと思っています。
- 大正琴、また楽しみにしています。
- フルーツアイス、美味しかったです。
- この病院に来て思うことは、皆さん明るく気軽に声をかけてくださり、私たち家族に気を遣ってくださること。病院スタッフの皆さんに励まされて頑張るところもあります。今日の会の話にもあったように、私自身の人生も楽しみながらやっていった方がいいかな…と考えられるようになりました。

## 漫画コーナー

### 恐怖のオクラ



この話は身の安全のためオクラ入りして下さい。イラスト M・F

## この人だ〜れ? 答えはP8▶

1



もちろん  
わかりますよね

自宅の庭での1枚。  
小さい頃から甘い物が好きで  
虫歯をたくさんつくりました...

2



# お知らせコーナー

## 人事のお知らせ

### 【新入職員紹介】

**仁井 美香**  
(看護部 看護師)

- 趣味 ドライブ
- 好きなこと 買い物
- 一言あいさつ

9月から3階の回復期病棟で勤務させていただきます。  
経験はありますが、分からないことがいっぱいあります。頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひします。



**松本 由起子**  
(在宅サービス部 訪問看護ステーション 看護師)

- 趣味 スノーボード
- 好きなこと 好きなこと:旅行
- 好きなもの:電
- 一言あいさつ

8月に静岡から来ました。まだ鳥殺のことがなにもわからないので、いろいろ教えてください。よろしくお願ひします。



**田中 一**  
(リハビリテーション部 リハビリテーション科 理学療法士)

- 趣味 バドミントン、車の運転
- 好きなこと 読書、聴話
- 一言あいさつ

10月1日よりお世話になっています。田中 一です。新しい環境に早く慣れて、患者様、地域の皆様の役に立てるように頑張るのでよろしくお願ひします。



**田中 優**  
(リハビリテーション部 リハビリテーション科 理学療法士)

- 趣味 旅行に行って写真を撮ること
- 好きなこと 温泉
- 一言あいさつ

岡山からリターンで鳥殺に帰ってきました。分からないことが多く、困惑をおかけしますが、頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。



**山根 広紀**  
(リハビリテーション部 リハビリテーション科 理学療法士)

- 趣味 ドライブ
- 好きなこと カラオケ
- 一言あいさつ

10月から鹿島病院に入職致しました。至らない部分もありますが、精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします。



**大月 さとみ**  
(看護部 看護師)

- 趣味 生花、水泳
- 好きなこと 登犬ピースといっしょにいること
- 買ったミニチュアダックス犬
- 一言あいさつ

鹿島の皆様ともう一度いっしょに働いてみたい。病気が治り1年ぶりに帰ってきました。新しい気持ちでまた歩き出します。よろしくお願ひします。



**川上 尚子**  
(看護部 看護師)

- 趣味 買い物、ドライブ
- 好きなこと 音楽を聞きながらドライブするのが好きです
- 一言あいさつ

皆さんにご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯頑張りますので、よろしくお願ひ致します。



**清水 好子**  
(在宅サービス部 在宅介護支援事業所 介護支援専門員)

- 趣味 読書、映画鑑賞
- 好きなこと 好きなこと:買い物
- 好きなもの:モンブラン
- 一言あいさつ

ご迷惑をおかけするかもしれませんが、少しずつ向上していきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。



- 昇進 在宅サービス部訪問看護ステーション所長 太田 静子 在宅サービス部訪問看護ステーション
- 退任 在宅サービス部訪問看護ステーション 田中 さつ子
- 看護部 狩野 淳子
- 看護部 山崎 真希子

### この人だ〜れ?

1 看護部 安達 トキ子さん

2 看護部 清部 真澄さん

# 公仁会事業報告 6・7・8月

男女別利用者数 変化項目  
リハビリ数

## 鹿島病院

### ①外来部門

(稼働日数70日)	1日平均入数
外来患者数	925人 13.2人/日

### ②病棟部門

(稼働日数92日)	1日平均人数
-----------	--------

#### ②-1 特殊疾患病棟 (2F)

新入院患者数	5,435人 59.1人/日
リハビリ実施数	2,110人 22.9人/日
リハビリ実施数	2,235単位 24.3単位/日

#### ②-2 医療療養病棟 (3F)

新入院患者数	2,588人 28.1人/日
リハビリ実施数	2,643単位 28.7単位/日
リハビリ実施数	11.2単位/日
リハビリ実施数	8単位 0.9単位/日

#### ②-3 回復期リハビリテーション病棟 (3F)

新入院患者数	2,236人 24.3人/日
リハビリ実施数	10,882単位 116.1単位/日
リハビリ実施数	1,027単位 11.2単位/日
リハビリ実施数	8単位 0.9単位/日

#### ②-3 医療療養病棟 (4F)

新入院患者数	5,072人 55.1人/日
リハビリ実施数	1,700単位 18.5単位/日
リハビリ実施数	259単位 2.8単位/日
リハビリ実施数	473単位 5.1単位/日

#### ②-4 短期入院療養介護

ショートステイ利用件数	28人 0.3人/日
-------------	------------

## 在宅サービス部

### ①通所リハビリ “やまゆり”

(稼働日数79日)	1日平均利用者数
通所リハビリ利用者数	2,268人 29.0人/日
回復期リハビリ実施数	64単位 0.8単位/日
回復期リハビリ実施数	116単位 1.5単位/日
個別リハビリ実施数	2,231単位 28.2単位/日

### ②鹿島病院 デイサービスセンター

(稼働日数79日)	1日平均利用者数
通所介護区利用者数	1,525人 20.6人/日

### ③鹿島病院 幸町デイサービスセンター

(稼働日数79日)	1日平均利用者数
通所介護区利用者数	1,317人 16.7人/日

### ④訪問看護 “いつくしみ”

(稼働日数64日)	1日平均利用者数
訪問看護利用件数	395人 6.2人/日
訪問看護利用件数	651人 10.2人/日
訪問看護利用件数	247人 3.9人/日

### ④鹿島病院 やまゆり居宅介護支援事業所

(稼働日数04日)	1日平均利用者数
居宅介護支援事業所	354人 118人/日
居宅介護支援事業所	45人 15人/日

## 職員数

職種	職員数(名)
医 師	5人
調 剤 師	3人
P T	17人
O T	16人
S T	4人
看護師(看護部)	84人
看護師(看護部)	2人
看護師(看護部)	1人
社会福祉士	5人
介護支援専門員	6人
介護士	44人
薬剤師	1人
管理栄養士	4人
その他	58人
合 計	250人

25.10名



地域連携室便り 37

医療相談部

小林 裕恵



患者さんの入院生活をささえ、安心して療養し退院を迎えられるよう支援することが私たち病院職員の仕事です。患者さんが入院すると、主治医をはじめ担当のチームで入院計画をつくります。その延長線上に退院計画があります。退院計画とは退院後の生活がどうなるのか、どのようにすごしたいのか、すごせるのかを具体的に考え、準備することです。

退院支援の過程で患者さんや御家族は「もっと良くなるまで入院させてほしいのに」「仕事をしながら介護ができるのだろうか」と迷い、気持ちが揺れることもあります。そんなときに患者や家族の在宅生活を支えるケアマネジャーの存在はなくてはならないものです。今回の地域連携室だよりではケアマネジャーの濱崎さんに連携研修会について紹介していただきます。

やまゆり居宅介護支援事業所  
ケアマネジャー

濱崎 貴仁



ケアマネジャーとMSWの合同研修について

現在、医療・介護を取り巻く環境が厳しさを増している中、高齢者の在宅生活を支える上で、医療と介護の連携は特に重要な課題です。今後、医療必要性が高い高齢者が増えていくと考えられています。そのため、ケアマネジャーには医療関係者との連携に基づいたケアプランへの適切な医療サービスの位置付けを行い、退院後の在宅生活がスムーズに送れるよう支援を行っていくことが求められます。

松江地域介護支援専門員協会では今年度研修事業第1弾、H25年9月7日に「今だからこそ、語り合おう!! MSWとケアマネジャーの連携について～更なる連携強化、顔の見える関係づくりを目指して～」と題して、「MSWとケアマネジャーの合同研修」を企画しました。

当日は松江圏域のケアマネジャーが72名、MSWが15名、鳥根大学 杉崎千洋先生、松江市介護保険課から1名、計89名と大変多くの参加がありました。これは参加者の皆さんが今まで以上に連携活動に関心や期待をもたれていることの表れだと感じました。

内容は松江赤十字病院 医療社会事業部 奥公明氏が「急性期病院における連携について」鹿島病院 医療相談部小林裕恵氏が「慢性期病院における連携について」と、それぞれの立場から、病院の機能や現状、入院時、退院時の連携の課題について講演されました。その後は各グループに分かれて座談会方式でグループワークを行い、ケアマネジャーとMSWの方々がお互いに、意見交換を行ないました。

グループワークでは以下のような意見がありましたので一部紹介します。

(ケアマネジャーより)

- ・主治医と家族で話をして急に退院となるケースがある。  
(主治医から退院と言われれば、家族は明日にでも退院と思ってしまうことが多い)

- ・入院時カンファレンスに参加し、普段の食生活や在宅生活の様子などの具体的な内容を伝えられて良かった。
- ・入院中に行なわれるカンファレンスにケアマネジャーがもっと参加できると良いと思う。
- ・病院が抱える課題や入院中に取り組まれている支援を知ることができて良かった。
- ・鹿島病院の変化や在宅介護スコアについてもっと知りたい。(MSWより)
- ・在宅生活中の支援方法、在宅復帰への課題や家族の受入れ・介護力などの情報を入れてもらえると良い。
- ・病院へ頻りに顔を出してもらうことで連携がとれて話がしやすい。

ケアマネジャーとMSWは高齢者の生活を支えていく上で切っても切れない関係です。入院の際にケアマネジャーから病院へ、在宅生活の様子や生活上の留意事項に関して情報提供を行います。ここからケアマネジャーとMSWの連携がスタートします。近年は入院時の情報提供や退院支援の際、連携を行うことに対して、連携加算がつくようになり、以前にも増して連携の必要性は深まっているように感じています。情報提供書や紙面では伝えきれない情報を病院に出向き、直接顔を合わせることで、在宅生活や入院中の細かい様子などの具体的な情報が共有できるようになり、より良い、支援に繋がります。

当事業所は鹿島病院内にあり、MSWを含めて多職種と関わる機会を多く持つことができ、入退院時の連携を密に行う事が出来ます。今後の私個人の課題は、当院以外の病院との連携も今まで以上に、深めていくことです。ケアマネジャーとして、高齢者の医療と介護の懸け橋になれるように頑張っていきたいと思います。

これからも定期的に合同研修会を開催し、意見交換を行なうことでお互いの仕事や考えを知り、同じ相談援助職の仲間として今まで以上に良い関係を構築していきたいと思っています。

# ときめき広場



## 作業がもたらす力

リハビリテーション部 角田 悠

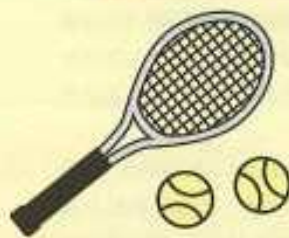
作業療法では夏が近づいてくると夏野菜とグリーンカーテンを作ります。植物を育てることは、植物の生長を見ながら月日を感じてもらい、育っているかどうか気になるから、ベランダまで出てみよう!という気持ちになる。みんながそこに集まることで、知り合いができ、昔話に花が咲く。「園芸」という作業一つでも、その人に合わせて目的や効果が違ってきます。

昔を思い出しながら、肥料をやる時期を決め、立派に野菜が育ったとき。

野菜を見ながら何を作ろうか考えて、作った料理をおいしいと言ってもらえたとき。

体がうまく動かなくても、目の前の人や誰か分からなくても。そのできごとは人の自信と誇りを呼び戻します。その経験がその人を「患者」ではなく、畑仕事をずっと続けてきた旦那さん。結婚してから今までずっと家事をこなしてきたお母さんに戻します。

今回は園芸を取り上げましたが、入院期間の中で数多くの「作業」が眠っていると思います。日々のリハビリの中で、作業がもたらす力が、その人らしく生きる方法を教えてくれるようです。



## テニス部の活動がはじまりました

リハビリテーション部 藤原 法文

10月15日深田公園で第一回テニス部が開催されました。当日は台風の影響の中、自然の猛威には勝てず、やむなく途中で中止となりました。が、しかし!その一瞬は誰もが青春時代を彷彿とさせる身のこなしで輝き放っていました。まさに、「STAY GOLD!!!」

私自身も初心者であり、心細いので経験者・未経験者問いませんので、参加してみてください。不定期開催になると思いますが、またサイボウズにて連絡します。



## 編集後記

食欲の秋となりましたね!  
 デイサービスにも美味しそうな見事な葡萄が盛りましたよ。  
 栗・松茸・秋刀魚・あま〜いスイーツを思い浮かべるだけでも幸せな気分になりますね♪  
 美味しいものをたくさん食べてパワーをつけてこれからの冬を乗り越えましょう!! (事務部 向村仁葉)

編集・発行・責任者：福利厚生・広報委員会委員長  
 医療法人財団公仁会 Y690-0903 千葉県松江市鹿野町北分243-1  
 e-mail kom@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/  
 鹿島病院 TEL(0852)82-2627 FAX(0852)82-3064  
 訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL-FAX(0852)82-2640  
 やまゆり居宅介護支援事業所 TEL-FAX(0852)82-2645  
 酒田リハビリテーション(やまゆり) TEL-FAX(0852)82-2637  
 幸町デイサービスセンター TEL(0852)28-1388 FAX(0852)28-1384  
 鹿島病院デイサービスセンター TEL(0852)82-2627 FAX(0852)82-3064  
 印刷元 千代印刷株式会社